

平成21年 1月

柳原清孝 学位論文審査要旨

主 査 重 政 千 秋
副主査 久 留 一 郎
同 渡 邊 達 生

主論文

閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者における血清尿酸に対するnCPAPの慢性効果

(著者：柳原清孝、加藤雅彦、井川修、久留一郎)

平成20年 米子医学雑誌 59巻 165頁～173頁

審査結果の要旨

本研究はポリソムノグラフィー検査で閉塞性睡眠時無呼吸症候群と診断した患者を対象とし、低酸素ストレスとインスリン抵抗性の観点から慢性的なnCPAP (nasal continuous positive airway pressure) 治療と高尿酸血症との関係について検討したものである。その結果、閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者における慢性的なnCPAP治療は、夜間の低酸素ストレスの解除やインスリン抵抗性の改善を介して血清尿酸値を低下させることが示唆された。したがって、閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者にnCPAP治療を施行し血清尿酸値を改善させるということは、心血管疾患発症のリスク低下に貢献する可能性を示唆するものであり、本論文の内容は心血管内分泌代謝学の領域において明らかに学術水準を高めたものと認める。